

2 共に学び、共に育つ「共育」のまち

理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「めざすべきまちの姿」の評価

◇市の評価

総括コメント	評価
概ねどの事業も目的に沿って進捗している。Bと評価されたのは、スポーツ推進計画における一部の事業が天候に左右されたため、目標を達成できなかったことが原因である。 各々の事業は、連携を図ることでさらに効果が高まると思われるため、内容が関連した事業において広報・周知を図るなどを進めることが望ましい。	B

◇基幹計画に位置づけられる個別計画の総括評価結果

生涯学習活動推進プラン	逗子市文化振興基本計画	逗子市スポーツ推進計画	学校教育総合プラン	逗子市社会教育推進プラン
A	A	B	A	A

◇審議会・懇話会等の意見／【Check】の観点からの意見等

審議会・懇話会等総括意見

- ・各個別計画事業として行われている多様な講座等の学習機会の提供は、必要なニーズ、意味づけがあって実施しているが、基幹計画の視点から講座等の役割、受委託分担等を含めて見直すべきである。内容が類似する重複した講座等も発生している。
- ・個別計画に関連する事業を参考程度に記載するとよいのではないか。
- ・講座等への参加を周知するには広報活動の一層の努力が必要である。逗子市市民活動・生涯学習情報サイトが導入されたことは評価できるが、認知度が高いとはいえない。この周知が望まれる。
- ・市と市民団体、市民との連携、各施策間の連携を意識的に行う必要がある。
- ・世代間交流を目指した企画が極めて少ない印象である。
- ・若年層の人材育成のため、社会に貢献するアクションにつなげる講座の開設が必要である。
- ・生涯学習と社会教育の線引きがあいまいである。

<各個別計画の評価状況についての意見>

- ・各個別計画が何名程度の職員によって実施されているかという基本情報が提供される必要がある。
- ・社会教育総合プランにおいて評価されている人権教育等事業については過去に行われた人権宣言策定委員会の議論を基になされたのか確認したい。
- ・文化振興基本計画のアーカイブスについては古文書の位置付けについて結論が出た段階で報告してほしい。
- ・学校教育総合プランにおける指導内容の標準化のための「自己チェックシート」は特色ある学校づくりの取組みと矛盾するのではないか、画一的な教え方になる懸念がある。
- ・指定管理者制度を導入している場合、事業の評価の際に懇話会に出席を求め、聞き取りを行える制度を確立してほしい。
- ・数値目標を定めるのであれば、その積算根拠を明らかにしてほしい。
- ・懇話会等の意見をどうフォローされていくのかチェックが可能な状況にすべきである。
- ・人材育成に重点を置いた施策が必要である。
- ・市民講師を学校教育の場で活用してほしい。

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

＜計画の推進・改善に向けて意見・提案＞（今年度、来年度に向けた意見）

（基幹計画の懇話会等が作成）

- ・前期実施計画のうち、4年後の目標は立てられているが、その基準で2015年度を評価している。4年間かけて目標にを達成するのではなく、1年目から目標を達成したか否かで評価され、すでに達成された目標も少くない。長期計画に向かって改善を図っていくというシステムとして機能していないのではないか。今年度、来年度に向かって、事業進行管理表の評価を踏まえての取組みへの記述が重要になってくるのではないかな。
- ・各計画相互の連携をどう行い、横断的な調整をするか検討が必要である。それにより各種講座の予算配分の見直しが行われることが期待される。また、公共施設等の資源の有効活用も期待される。
- ・実施事業への反省点・問題点の記述の方法をどうするか、他の事業との相対評価の必要性、広報活動に関する評価項目の必要性が課題である。
- ・事業進行管理表の進捗状況の評価欄「ア 予定どおりに進捗」と「ア 予定どおりに進捗（事業完了）」が併記しているのが分かりにくいので区別してほしい。
- ・事業進行管理表の紙面では十分な記載は困難であるため、統一した補助資料の添付が必要である。各事業の成果について、報告すべき項目とその内容と範囲などをあらかじめ定め、また資料の体裁（様式）などのマニュアル化が望ましい。講座事業等ではアンケートを統一した形式にすることで、事務の効率化と蓄積されるデータの解析による有効な示唆を得ることが期待できる。
- ・進行管理（評価）に当たっては、対象事業の担当課も出席する連絡会のようなものを開催してはどうか。それによって、事業の詳細な内容や課題等と正確に把握することができるのではないかな。

＜基幹計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞（次期計画に向けた意見）

（基幹計画の懇話会等が作成）

- ・基幹計画を含め、各個別計画の冊子の体裁（本文以外に掲載されている資料等）がバラバラである。掲載すべき内容（参考資料を含む）を検討し、体裁を整えることが必要である。
- ・各事業の質に対する評価の必要性を指摘する意見が、各懇話会から多く出されている。質的評価（質的側面を含む目標設定）をどのように行うかを検討することが必要。
- ・新しい総合計画のもとで、基幹計画及び個別計画の評価の対象となる事業が、抽出された事業に限られた。このため、市がどのような学習機会を提供しているかその全体像や、市民のグループ・サークルの活動状況の全容が見えにくくなった。このことは、新しい企画を検討する際の障害となる恐れがある。

生涯学習活動推進プラン

◇理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

総括	評価	審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)
どの事業も設定した目標に向かって進捗している。今後も社会状況の変化に応じて改善を進めながら事業を進める必要がある。	A	事業の進捗状況は概ね良好である。 それぞれの事業における課題や社会状況の変化に対応し、適切なテーマを設定するとともに、様々な方法による学習機会を提供をはかることが望まれる。

◇施策体系別の評価

施策体系	評価	コメント	総合評価の状況			審議会・懇話会等の意見
			(a)	(b)	(c)	
1 生涯を通じた学習活動への支援	a	逗子市市民活動・生涯学習情報サイト「ナニスル」の開設により情報が充実した。 生涯学習の各種講座の開催され、好評であった。	2			逗子市市民活動・生涯学習情報サイト「ナニスル」の運用が開始され、今まで紙媒体のみであった情報がICT(情報通信技術)により、検索が容易になったこと、情報の収集・提供が迅速化したことは評価できる。情報の充実と市民への認知度向上が当面の課題であり、努力が望まれる。 生涯学習講座については多様な主題で開催されていて、参加者の評価も高い。さらなる発展を期待する。
2 市民活動に関する学習活動への支援	a	様々な分野の講座が開催され、充実している。	1			市民活動の活性化をはかるとともに、市民と行政の一層の協働をはかるためには、効果的な学習機会の提供が不可欠である。学習者のニーズの把握、広報活動の工夫など、講座の企画について検討を加え、よりよい講座を開催するよう努力されたい。
3 現代的課題に関する学習活動への支援	a	読み聞かせ講座、ブックスタートなどの講座が充実している。 様々なテーマによる展示が行われ、好評であった。	1			子どもの読書活動に力を入れてきており、優れた成果をあげている。 多くの市民が気軽にリファレンスサービスを活用するよう、サービス利用の普及活動の工夫が望まれる。
4 地域で子どもを育てる環境づくり	a	様々な子ども向け講座やイベントが実施され、青少年の居場所づくりとしての役割を果たしている。	1			体験学習施設スマイルは児童青少年の居場所として設置され、その目標は一応の達成をみている。開設されている講座はそれぞれ有意義であるが、ボランティア活動等の積極的な社会参加・社会貢献に関する講座の開設が望まれる。また、事業実施にあたり、青少年の意見をどのように汲み取り、反映させていくのか、分かりやすい評価・記載が望まれる。

◇審議会・懇話会等の意見

＜各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見＞

予定通りに進捗していることで良しとするならば、懇話会による評価は不必要である。進捗状況とあわせて実施された事業に対する反省点・問題点も明記すべきである。

予定通りに進捗とあっても、各事業の予定が予め示されていないため、各事業がどのように企画、実行、点検、改善されているのか、説明が不足している。

事業進行管理表の進捗管理事項の記入欄の記入する余地について、事業内容が多岐にわたる事業に関しては充分とは言えない。このような場合、予め各事業の実施結果を詳細に説明できる資料の添付を徹底されたい。

なお、類似する事業については、比較検討に資するため、同一の様式となるよう工夫が望まれる。

＜計画を越えた連携についての意見＞

内容や対象が関連する講座等については、相互に周知を行うなど、市の事業同士の連携をはかることが望ましい。

事業実施後のアンケートの結果や個別の相談等で浮上する市民の学習要求を現代的課題として講座等を実施する際に活かしていくような連携の仕組みが必要である。

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

＜事業の推進・改善に向けて意見・提案＞（今年度、来年度に向けた意見）

評価の対象となっている事業は、どの事業も進捗状況は良好である。行政の事業の多くは毎年実施され、目標を達成しても完了（終了）とはならない。このような場合では次に何を目指していくのか、新たな目標をどう設定するのか、その手続きを明確に定めていくことが望ましい。

事業の実施において、広報活動が大きな要素になると考えられることから、事業進行管理票に広報活動の状況とその自己評価の記載が望まれる。

＜個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞（次期計画に向けた意見）

平成26年度までの「ずし生涯学習推進プラン」と現在の「生涯学習活動推進プラン」とのズレをどう調整していくか、検討が必要である。

旧プランにおいては逗子市は行政として市民に学んでほしい学習課題を中心に学習機会を提供してきたほか、市民が学びたいとする学習課題について多くの市民団体が学習活動を展開してきた。現行のプランでは、総合計画の元に基幹計画、個別計画を置く3層構造とし、行政評価の対象となる事業をリーディング事業などとして事業数を絞り込んだ。職員と懇話会メンバーの負担軽減と事務能率の向上をはかるとともに、行政評価対象事業をモデルとして、他の事業の改善を意図したものである。

【総合計画の体系】 2-1	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 1 子どもも大人も輝く生涯学習のまち
計画における位置付け	1 生涯を通じた学習活動への支援

事業名	共育ネットワーク構築事業	◎ リーディング事業	課コード	0402
		○ 基幹計画事業	所管名	市民協働課
事業概要	目的：子どもがいきいきと生きていく力と心を育むとともに、これに関わる大人世代を含むすべての市民が共に育つ仕組みをつくる。			
	対象：市民			
	手段：既存の生涯学習推進事業を発展させ、市の主催する講座やイベント、市民団体の主催する講座やイベントをつなぎ、人材やプログラムに関する情報を提供するなど学習機会をコーディネートする仕組みをつくる。			
2018(平成30)年度 目標	「共育」に関する講座等の情報を一括するシステムが運用されている。	現状値 (25年度末)	各所管で一部実施されているが、「共育」と位置付け、横断的に集約されていない。	
2015(平成27)主な事業内容	共育に関するポータルサイトを開設			
	事業費 (予算額)		600千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	逗子市市民活動・生涯学習情報サイト「ナニスル」を27年11月に開設した。 子ども対象の学習メニューについて、教育関連事業者や市民団体によるワークショップの実施を検討した。			目標達成 状　　況	ポータルサイトを開設し、運 営を開始した。
				事業費 (実績額)	600,000円
進捗状況 の評価	ア　予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情		
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）		
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。		予定どおり事業を実施したため		
評価を踏ま えての取組 み(見直し)	開設は行ったが、情報量を充実させ、学 習相談等に役立てられるよう運用を検討 する。		検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など		
審議会・ 懇話会等の 意見	今まで紙媒体のみであった情報がデータ化され、検索も可能になったことは評価できる。 市民の認知度が低い。一層の周知を図る必要がある。 イベント情報は充実しているが、ボランティア情報や団体情報の充実が望まれる。 検索がしづらいので改善が望まれる。 インターネットが使えない人にも対応することが望ましい。 市民講師の登録やイベント情報の提供、団体登録等が「ナニスル」から申請できるようになるとより情報量の充実が図れるのではないかと。 「ナニスル」は文字が多く、見ていて楽しくない。もう少し写真やイラスト、ポスター等が掲載されるとよい。 視覚障がい者のための読み上げ機能を追加できるとよい。				

【総合計画の体系】 2-1	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 1 子どもも大人も輝く生涯学習のまち
計画における位置付け	1 生涯を通じた学習活動への支援

事業名	生涯学習講座事業	○ リーディング事業	課コード	0402
		● 基幹計画事業	所管名	市民協働課
事業概要	目的：生涯学習社会の実現に向けて、生涯学習に関連する講座を開講し、市民の学習活動を支援する。 対象：市民 手段：生涯学習に関連する講座を開講する。			
2018(平成30)年度 目標	生涯学習の各種講座が、115講座開設されている。		現状値 (25年度末)	104講座
2015(平成27)主な事業内容	市民交流センターの指定管理者に委託し、生涯学習の各種講座の実施			
			事業費 (予算額)	700千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	ずし楽習塾講座 28講座125回 参加者数延べ1,345人 詳細は別紙のとおり。			目標達成 状 況	各種講座が実施された
				事業費 (実績額)	700,000円
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情		
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）		
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。		予定どおり事業を実施したため		
評価を踏ま えての取組 み（見直し）	ずし楽習塾講座のみならず、指定管理者 独自の視点による講座実施を推進する		検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など		
審議会・ 懇話会等の 意見	市民の企画により活発に講座が開催されている。 従来の延長ではなく、他のグループとの連携など新しい視点があってもよいのではないかな。				

【総合計画の体系】 2-1	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 1 子どもも大人も輝く生涯学習のまち
計画における位置付け	2 市民活動に関する学習活動への支援

事業名	市民活動支援講座事業	○ リーディング事業	課コード	0402
		● 基幹計画事業	所管名	市民協働課
事業概要	目的：市民活動、ボランティア活動など公益性のある市民の活動の推進を図る。 対象：市民活動、ボランティア活動などをする者、団体、及びこれから活動しようとする者 手段：市民活動支援講座や市民交流センターフェアを開催する。			
2018(平成30) 年度 目標	①5分野以上の講座が開催されている。 ②市民交流センターフェアを開催する。	現状値 (25年度末)	① 3 分野 ②開催されていない。	
2015(平成27) 主な事業内容	市民交流センターの指定管理者に委託し、市民活動に関する各種講座、市民交流センターフェアの実施			
		事業費 (予算額)	400千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	市民活動のススメ講座 7回実施 76名参加		目標達成 状 況	各種講座、交流センターフェ アが開催された
	市民交流センターフェア 2回実施 198名参加 第1回 27年12月4日 基調講演、補助金交付団体の中間報 告、交流会 42名参加 第2回 28年3月25日 水泳指導、講演、団体のパネルセッ ション等 156名参加			
	事業費 (実績額)		400,000円	
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）	
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。		予定どおり事業を実施したため	
評価を踏ま えての取組 み(見直し)	指定管理者との連絡調整により、市の事 業との連携を図っていく		検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	
審議会・ 懇話会等の 意見	市民活動のススメ講座の各回の参加者が少ないのではと思われる。活動者のニーズと講座の企画に ついて再度検討されたい。			

【総合計画の体系】 2-1	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 1 子どもも大人も輝く生涯学習のまち
計画における位置付け	3 現代的課題に関する学習活動への支援

事業名	図書館活動事業	○リーディング事業	課コード	1013
		●基幹計画事業	所管名	図書館
事業概要	目的：読書普及のための図書館活動を積極的に展開し、市民が読書に親しむ機会の提供と読書相談（レファレンスサービス）の充実など図書館利用の促進を図る。			
	対象：市民(図書館利用者)			
	手段：子どもの頃から読書に親しむ機会を提供するため、あかちゃんと保護者を対象としたブックスタートの実施、乳幼児や小学生を対象としたおはなし会の開催、保護者や読書ボランティア対象の読み聞かせ講座の開催等を実施する。利用者の求める資料や情報を適正に提供するために、レファレンスサービス(調べ物相談)の充実に努める。			
	2018(平成30)年度 目標		現状値 (25年度末)	49%
2015(平成27)主な事業内容	○ブックスタートの実施 ○おはなし会の実施			
	○読み聞かせ講座の実施 ○資料の利用促進を目的とした図書展示の開催			
		事業費 (予算額)	4,344千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	○ブックスタートの実施 4ヶ月検診時に実施配布計378名 ○おはなし会の実施 参加者計子ども738人大人404人計1, 142人 ○読み聞かせ講座の実施 ○資料の利用促進を目的とした図書展示の開催			目標達成 状 況	図書館カード登録率が53%に なった。
				事業費 (実績額)	4, 241, 777円
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情		
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）		
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。				
評価を踏ま えての取組 み(見直し)				検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	
審議会・ 懇話会等の 意見	リファレンスサービスの使い方の講習等を行ったらどうか。 目標を既に達成しているので、今後何を重点的に取り組んでいくのか、方針を示してほしい。				

【総合計画の体系】 2-1	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 1 子どもも大人も輝く生涯学習のまち
計画における位置付け	4 地域で子どもを育てる環境づくり

事業名	体験学習施設講座等事業	● リーディング事業 ○ 基幹計画事業	課コード	0507
			所管名	児童青少年課
事業概要	目的：児童青少年の健全育成。 対象：市民及び児童青少年 手段：体験学習施設における講座等のイベントの実施並びに貸館業務の実施。			
2018(平成30)年度 目標	・ 延べ受講者数1,500人 利用者数50,000人		現状値 (25年度末)	受講者数約1,000人、利用者数約30,000人（青少年会館実績）
2015(平成27)主な事業内容	・ 主催講座20講座実施。そのほかに、スマイルまつり。サイエンスフェスティバル等のこどもから大人まで楽しめるイベントを開催。			
		事業費 (予算額)	1,332千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	・主催講座受講者数 1,446人 ・スマイルまつり 11月14日来場者2,000人 ・サイエンスフェスティバル 12月19日来場者441人 ・施設利用者数 児童青少年20,905人 大人 6,848人 乳幼児及びその保護者 13,333人 計41,086人			目標達成 状 況	2022年度に設定した目標値を 講座受講者数で70%以上利用 者数では、60%以上達成して いる。
				事業費 (実績額)	2,288,421 円
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	居場所の無い児童青少年への対策。	
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）		
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。				
評価を踏ま えての取組 み（見直し）	今後は、量も確保しながら、質の良いイ ベント・講座を提供していく。			検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	
審議会・ 懇話会等の 意見	社会貢献に関する講座の実施が望まれる。 事業実施にあたり青少年の意見をどのように反映させたのか、学生委員会の活動などを実績として わかるよう記載すべきである。 施設利用者数が少ないのではないかな。				

逗子市文化振興基本計画

◇理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

総括	評価	審議会・懇話会等の総括意見
「文化を新たに創造するまち」という目標に対して、市民の実行委員会による「逗子アートフェスティバル」を開催し、市民の中から文化活動の担い手を発掘することができた。また「アウトリーチ活動」においては、小中学校や福祉施設での活動により、子どもたちや、普段文化に接する機会の少ない方に、機会の提供をすることができた。これらにより「地域の文化を市民の手で拓き、互いを高め合い、育むことで、「まちが文化を活かし、文化がまちを活かす」地盤づくりにつなげることができた。	A	(個別計画の懇話会等が作成) ・市民なら誰でもいつでもアートに触れ、体験し、観ることができる、そんなまちづくりにまい進してほしい。 ・「逗子アートフェスティバル」「アウトリーチ活動」とも目標達成レベルだと思う。 ・「逗子アートフェスティバル」については、更なる発展を目指して、市民の参加を募る企画、市外の来街者を招き入れる企画の両方が融和するように、一層関係団体との融合が望まれる。

◇施策体系別の評価

施策体系	評価	コメント	総合評価の状況			審議会・懇話会等の意見
			(a)	(b)	(c)	
1 地域文化の担い手の育成～市民が継承し、創造し、発展させる～	a	32の市民企画が参加した逗子アートフェスティバルにより、新たな文化活動の担い手を発掘することができた。今後も一層取り組みを進め、市民の文化創造力を発展させていく。	1			・地域文化の担い手育成としての「逗子アートフェスティバル」は成功例といえる。 ・今後は一層市民の認知度を上げ、積極的に担い手としての市民の参加を促進していくべきである。
2 市民文化活動の活性化～市民の主体的活動をより豊かに～						
3 文化芸術に接する機会の拡充～すべての市民が文化にふれあうように～	a	福祉施設でのアウトリーチ活動の実施により、日頃文化芸術に触れる機会が少ない人にも機会を提供することができた。今後は提供メニューの増も含めて、一層取り組みを進めていく。	1			・メニュー・対象ともに、より幅広く、積極的に活動を進め、更なる成果を上げてほしい。 ・逗子からのアーティスト輩出を目指して、一層活動に力を入れてほしい。
4 文化資源の活用による地域づくり～逗子の文化力を活かす～						

◇審議会・懇話会等の意見

＜各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見＞

- ・目標設定が小さすぎる。無難で楽に達成できるような目標設定では意味がない。相当の努力が必要な、チャレンジ精神旺盛な目標設定をしてほしい。
- ・評価ランクの基準が甘く、抽象的で概念的である。これでは厳しい評価はできない。
- ・「アウトリーチ活動」について、今後指定管理者が変更になる場合は、事業の引き継ぎなど十分配慮し運営してほしい。

＜計画を越えた連携についての意見＞

- ・市と市民との連携、市のなかの組織どうしの連携、各施策間の連携など、きちんとできているとは言えない。
- ・連携する者どうしが、互いの垣根を取り払って、「平等」の精神で丁々発止の連携強化を進めてほしい。そのため強力なリーダーも必要だと思う。
- ・もっと横のつながりを意識し、利用していくことが大切である。

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

＜事業の推進・改善に向けて意見・提案＞（今年度、来年度に向けた意見）

- ・事業の推進や改善には、スピードと適時な情報活用が重要である。
- ・個別計画の今後の展開や策定に向けて議論・検討を要する事項（次期計画に向けた重要懸案事項）については、市民のライフサイクルマネジメントの観点から、組織横断的に議論・検討を進め、活きた魅力あるプランを策定してほしい。その際は、例えば民間の人材を推進役として登用し、市と市民の協働によって実施することなども、検討してほしい。
- ・「逗子アートフェスティバル」について、参加費を設定している企画は、金額が内容に見合うものかどうか確認が必要である。今後は企画の数より内容を重視してほしい。
- ・来年度のトリエンナーレに向けて、メディア露出の努力をしてほしい。
- ・「アウトリーチ活動」について。保護者の参観や、メニューにオーケストラの演奏を取り入れるなど検討してほしい。また、福祉施設では、浄瑠璃や琵琶語りなどのメニューを入れるなど検討してほしい。

＜個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞（次期計画に向けた意見）

- ・個別計画の推進には、明確なゴールの設定、具体的な目標の設定と、それを実現するための戦略と行動計画、行動を支えるための資金やリソースなどの支援が必要である。
- ・現在は限られた市の予算の中で個別計画が実施されているが、将来的にはクラウドファンディングの手法を取り入れるなど、積極的に外部にアピールしながら支援の輪を確保するなどして、今まで以上に知恵を絞っていかねば、前進することは難しいと思う。
- ・現状の制約を前提とする限りダイナミックな発想は生まれない。一見奇想天外と思われる発想を是とする組織の柔軟性が必要である。

逗子市文化振興基本計画

◇理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

総括	評価	審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)

◇施策体系別の評価

施策体系	評価	コメント	総合評価の状況			審議会・懇話会等の意見
			(a)	(b)	(c)	
5 文化情報の収集と活用 ～(仮称)逗子アーカイブズ*を目指して～						
6 文化振興のための環境づくり ～まちに文化があふれるように～	a	市における文化振興の拠点としての文化プラザホールの維持管理は、財政状況を踏まえて、優先順位を見極めながら順次進めていく。	1			・ホールの維持管理はもっと能動的に進めてほしい。自ら仕掛けて「資金」を確保する、といった姿勢が大切だ。

◇審議会・懇話会等の意見

＜各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見＞

＜計画を越えた連携についての意見＞

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

＜事業の推進・改善に向けて意見・提案＞（今年度、来年度に向けた意見）

＜個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞（次期計画に向けた意見）
--

【総合計画の体系】 2-2	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 2 文化を新たに創造するまち
計画における位置付け	(1) 地域文化の担い手の育成

事業名	文化振興推進事業（逗子アートフェスティバルの充実）	●リーディング事業 ○基幹計画事業	課コード	0403
			所管名	文化スポーツ課
事業概要	目的：文化と自然がつむぐ活力あるまちを実現させる。 対象：市民 手段：逗子アートフェスティバルをはじめとする文化振興事業を推進する。また、市民が主体的に実施する文化芸術活動について、後援等により支援する。			
2018(平成30)年度 目標	逗子アートフェスティバルの参加企画数が28企画になっており、質の向上が図られている。		現状値 (25年度末)	25企画
2015(平成27)主な事業内容	○文化振興基本計画調査・評価委員会を開催する。 ○逗子アートフェスティバルを開催する。 （トリエンナーレ＊方式による開催）			
			事業費 (予算額)	28,168千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	○文化振興基本計画調査・評価委員会を開催する。 →2回開催 ○逗子アートフェスティバルを開催する。 (トリエンナーレ*方式による開催) →10月1日～11月30日開催 来場者数55,015人 ※27年度はトリエンナーレではなく実施			目標達成 状 況	市民参加企画数は32企画にな り、目標は達成した。
				事業費 (実績額)	2,000,000円
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗(事業完 了)	個別事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情		
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況(相乗効果の有 無)		
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。		市民企画で32企画の参加があった。		
評価を踏ま えての取組 み(見直し)	2017(平成29)年度のトリエンナーレ方 式による開催に向けて、引き続き事業を 推進する。		検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など		
審議会・ 懇話会等の 意見	・行政と市民協働の数少ない成功例といえる。 ・今後更に認知度を高め、企画の充実(数ではなく内容)や集客(特に市外者)に努められたい。 ・高齢の方が楽しめる企画が少なく、特に文化協会の企画の減少が気になる。 ・来年度(トリエンナーレ)に向けた関係団体、市民組織との一層の連携が求められる。				

【総合計画の体系】 2-2	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 2 文化を新たに創造するまち
計画における位置付け	(3) 文化芸術に接する機会の拡充

事業名	アウトリーチ活動推進事業	○リーディング事業	課コード	0403
		●基幹計画事業	所管名	文化スポーツ課
事業概要	目的：文化芸術に興味があっても接する機会のもてない人がまだ多くいるため、触れられる機会を提供する。 対象：：市民 手段：：文化プラザホールの指定管理者と協議し、対象を拡大したアウトリーチ活動を実施する。			
2018(平成30)年度 目標	アウトリーチ事業の提供メニューが多様化し、6メニューになっている。	現状値 (25年度末)	3メニュー（演劇、能、落語）実施している。	
2015(平成27)主な事業内容	○文化プラザホール指定管理者によるアウトリーチ事業を実施する。			
		事業費 (予算額)	5,600千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	○文化プラザホール指定管理者によるアウトリーチ事業を実施する。 →小中学校で3メニュー（音楽、能、落語）15件実施。 福祉施設（特別養護老人ホーム）で1メニュー（浪曲）2件実施			目標達成 状 況	メニュー数は4メニューになり、1メニュー増となった。
				事業費 (実績額)	737,440円
進捗状況 の評価	ア 予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情	小中学校でのアウトリーチ活動は、学校側の希望や行事予定などに沿って行う必要がある。	
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）		
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。			実施したメニューは4メニューに増えた。	
評価を踏まえての取組み(見直し)	関係機関との調整を図り、提供メニューの充実と、対象者の拡大を目指す。			検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	
審議会・懇話会等の意見	・メニュー構成は、日本の古典芸能中心だが、オーケストラの生演奏なども検討してほしい。 ・小中学校への活動は極めて有意義である。継続し、参加を複数学年にする、親の参加を可能にするなども検討してほしい。福祉施設や高齢の方を対象とした活動も積極的に継続してほしい。 ・市は、指定管理者のモニタリングだけでなく、企画段階から内容について意見するようにしてほしい。その方が、両者の緊張感が増す効果がある。				

【総合計画の体系】 2-2	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 2 文化を新たに創造するまち
計画における位置付け	（6）文化振興のための環境づくり

事業名	文化プラザホールの維持管理事業	○リーディング事業	課コード	0403
		○基幹計画事業	所管名	文化スポーツ課
事業概要	目的：施設の長寿命化及び設備の安全と機能を維持して、将来の財政負担の軽減に努め、文化芸術の拠点を長期にわたって維持管理を実施する。 対象：文化プラザホール 手段：中長期的改修計画に基づき、きめ細かな点検や劣化に応じ計画的な施設の改修・修繕の実施をする。			
2018(平成30)年度 目標	中長期的改修計画に基づいた施設の改修工事を実施する。	現状値 (25年度末)	中長期的改修計画が策定されている。	
2015(平成27)主な事業内容	○中長期的改修計画に基づいた施設の改修修繕を実施する。			
		事業費 (予算額)	534,388千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容の実施結果	○中長期的改修計画に基づいた施設の改修修繕を実施する。 →中央監視制御システム改修工事、舞台音響工事、熱交換器修繕を実施した。		目標達成状況	中長期的改修計画と合致した修繕・補修はできていない。
進捗状況の評価	イ 予定より遅れている	個別事情 社会状況の変化、考慮すべき事情 計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）	市の財政状況が厳しい中、中長期的改修計画に基づいた施設の修繕・改修が十分に行えていない。	
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。		市の財政状況から、中長期改修計画に合致した予算措置が困難な中で、優先順位の高いものから実施した。	
評価を踏まえての取組み(見直し)	市の財政状況を踏まえながら、より優先度の高いものから実施していく。		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	
審議会・懇話会等の意見	・市は、維持管理にかかる費用を捻出する能動的な努力をすべき。ホールの「当日貸し」を行う、利用や運営の状況をきちんと管理するなどして、ホールの有効活用を行い費用を稼ぐ、といった前向きな維持管理の推進が求められる。 ・財政状況を勘案しながらの改修は当然であるが、後手にならぬよう多少無理をしても余裕を持って取り組んでほしい。 ・実施した改修、先送りした改修が具体的に分かるように報告してほしい。			

逗子市スポーツ推進計画

◇理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

総括	評価	審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)
「スポーツを楽しむまち」という目標に対して、「逗子市スポーツの祭典」の開催により、市民が気軽にスポーツを始めたり楽しめたりする場を設けることが出来た。またスポーツを楽しむための基盤として池子の森自然公園の整備も進めた。一方で、高齢者などスポーツによる健康増進が求められる方に向けた取り組みや、スポーツを始めたい方のための相談対応については、まだ改善の余地がある。 今後はこれらに注力しながら、スポーツによるこころと体の健康づくりを一層進めていく。	B	「逗子市スポーツの祭典」や「うみかぜクラブ」の実績を考えれば、評価は「B」が適当ではないか。

◇施策体系別の評価

施策体系	評価	コメント	総合評価の状況			審議会・懇話会等の意見
			(a)	(b)	(c)	
1 【健康づくり】 ひとりひとりがスポーツに親しみ健康な心とからだをつくる	a	「うみかぜクラブ」による「高齢者健康UP教室」の参加者が増加し、高齢者の体力維持・向上を図ることが出来た。今後も、「うみかぜクラブ」と協働して、高齢者向けの教室やスポーツプログラムの充実により参加者の増加を目指す。	1			特になし
2 【場づくり】 みんなでスポーツを楽しむ機会をつくり明るい生活を営むことができる	b	逗子市スポーツの祭典が開催され、スポーツを始めるきっかけを作った。今後は、スポーツを始めた人がその後も続けられるような仕組みやプログラムを取り入れるなど、継続の場としての機能も持たせていく。		1		・評価は「a」が適当ではないか。 ・スポーツ推進について、多くの関係者の努力の結果、逗子ではスポーツが盛んになってきていると思う。
3 【交流づくり】 スポーツを通じていきいきとした地域連携の輪を広げる	b	小学生のためのスポーツ団体一覧の公開や県スポーツ指導者情報の紹介など、一部の取り組みは進展した。スポーツ健康相談は、継続して行うことで必要な知識と経験を蓄積し、内容を充実させながら徐々に回数を増やしていく。		1		特になし
4 【基盤づくり】 スポーツを通じて活力に満ちたまちづくりを推進する	a	引き続き池子の森自然公園の整備を進めるとともに、計画の見直しにより設置場所が変更するアーチェリー場の整備について、競技団体などと協議しながら、方法について検討していく。	1			特になし

◇審議会・懇話会等の意見

＜各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見＞

- ・決められた評価ランクに従っての評価であることは分かるが、実績に比べて低く評価し過ぎていると思う。

＜計画を越えた連携についての意見＞

- ・「高齢者向けスポーツプログラム充実事業」では、うみかぜクラブ、体育協会、市関係部課（福祉部（介護保険課）、文化スポーツ課等）が、今後一層連携、協力して取組むことが望ましい。

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

＜事業の推進・改善に向けて意見・提案＞（今年度、来年度に向けた意見）

- ・「スポーツ推進事業（逗子市スポーツの祭典）」では、降雨時のプログラムも充実させていくべきである。
- ・「スポーツ推進事業（スポーツ支援体制の充実）」では、相談機会をより多く設けるとともに、医療系の行為（体力測定など）も含めた相談の実施も検討した方が良い。

＜個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞（次期計画に向けた意見）

- ・総合計画、基幹計画の目標設定の仕方に問題がある。
- ・設定された目標が適正か、一考が求められる。

【総合計画の体系】 2-3	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 3 スポーツを楽しむまち
計画における位置付け	(1) 【健康づくり】ひとりひとりがスポーツに親しみ健康な心とからだをつくれます

事業名	高齢者向けスポーツプログラム充実事業	○リーディング事業 ●基幹計画事業	課コード 所管名	0403 文化スポーツ課
事業概要	目的：：高齢者が主体的にスポーツを楽しむことによって、健康・体力づくりを図る。 対象：市民 手段：逗子市体育協会、「うみかぜクラブ」と協議による高齢者向けスポーツのプログラムの追加と教室の開催をする。			
2018(平成30)年度 目標	高齢者向けスポーツ教室の参加者が2,000人になる。	現状値 (25年度末)	1,854人	
2015(平成27)主な事業内容	○逗子市体育協会、「うみかぜクラブ」と協議による高齢者向けスポーツ教室等を実施する。 ○逗子市体育協会、「うみかぜクラブ」と協議による高齢者向けスポーツの種目を追加する。			
		事業費 (予算額)	528千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	○逗子市体育協会、「うみかぜクラブ」と協議による高齢者向けスポーツ教室等を実施する。 →うみかぜクラブ「高齢者体力UP教室」2,088人参加 ○逗子市体育協会、「うみかぜクラブ」と協議による高齢者向けスポーツの種目を追加する。 →追加なし（1種目）			目標達成 状 況	参加者が2,088人となり目的を達成した。
				事業費 (実績額)	円
進捗状況 の評価	ア 予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情		
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）		
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。			うみかぜクラブによる「高齢者体力UP教室」の参加者が2,088人になった。	
評価を踏まえての取組み(見直し)	逗子市体育協会、「うみかぜクラブ」と連携して、引き続き、事業を実施していく。		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など		
審議会・懇話会等の意見	・高齢化が進むことを考慮すると、目標設定（参加者数2,000人）が適切か再検討を要する。 ・今後も、市福祉部（介護保険課）やスポーツ関係団体との連携、協働を推進すべきである。				

【総合計画の体系】 2-3	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 3 スポーツを楽しむまち
計画における位置付け	(2) 【場づくり】みんなでスポーツを楽しむ機会をつくり明るい生活を営みます

事業名	スポーツ推進事業（逗子市スポーツの祭典）	● リーディング事業	課コード	0403
		○ 基幹計画事業	所管名	文化スポーツ課
事業概要	目的：市民が生涯にわたって、生活の一部にスポーツを取り入れ、スポーツを楽しんでいくために、子どもから高齢者まで、すべての市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会を提供し、継続的にスポーツを実施していくためのきっかけづくりとして「逗子市スポーツの祭典」を実施していく。 対象：市民 手段：逗子市スポーツの祭典実行委員会が中心となり企画・立案・運営を行う。 市内スポーツ関連団体と協働して開催する。			
2018(平成30)年度 目標	逗子市スポーツの祭典への参加者が4,000人になっている。		現状値 (25年度末)	実施していない。
2015(平成27)主な事業内容	○逗子市スポーツの祭典を開催する。 ・逗子市スポーツの祭典実行委員会による検討を行う。			
		事業費 (予算額)	10,480千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	○逗子市スポーツの祭典を開催する。 →11月14日（土）開催、参加者数 延べ1,786人 ・逗子市スポーツの祭典実行委員会による検討を行う。 →実行委員会開催数 7回 イベント内容や実施方法を検討した。			目標達成 状 況	参加者数は目標の値を大幅に下回り、達成できていない。
				事業費 (実績額)	625,172円
進捗状況 の評価	イ 予定より遅れている	個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情	降雨のため、実施できないイベントがあった。（28イベント中11イベント）	
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）		
個別事情を考慮した総合評価	(b) 個別事情を踏まえれば概ね順調であるとみなせる。			降雨のため、実施できないイベントがあった。「みんなの運動会」など、子どもから高齢者、障がいのある方まで幅広い層の人にスポーツを楽しむ場の提供ができた。	
評価を踏まえての取組み(見直し)	実行委員会と連携し、引き続き、事業を実施していく。			検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	
審議会・懇話会等の意見	・個別事業を考慮した総合評価は、降雨があったことから (a)が適当である。 ・目標設定を参加者数（4,000人）だけで設定することに一考が求められる。 ・4,000人という目標を達成できるように、降雨時のプログラムも充実させるべきである。				

【総合計画の体系】 2-3	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 3 スポーツを楽しむまち
計画における位置付け	（3）【交流づくり】スポーツを通じていきいきとした地域連携の輪をひろげます

事業名	スポーツ推進事業（スポーツ支援体制の充実）	○リーディング事業 ●基幹計画事業	課コード	0403
			所管名	文化スポーツ課
事業概要	目的：市民のスポーツによる健康づくりのための支援体制の構築 対象：市民、指導者 手段：スポーツによる健康づくりのための相談及び相談機会の情報提供			
2018(平成30)年度 目標	スポーツ健康相談を月2回以上実施している。		現状値 (25年度末)	実施していない
2015(平成27)主な事業内容	○逗子市体育協会と協議し、スポーツ健康相談の検討を行い、実施する。 ○スポーツ・健康づくりの教室、指導者等の情報収集及び運用方法等を検討する。			
		事業費 (予算額)	1,000千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容の実施結果	○逗子市体育協会と協議し、スポーツ健康相談の検討を行い、実施する。 →市立体育館での健康相談実施8回（8月～3月／月1回） ○スポーツ・健康づくりの教室、指導者等の情報収集及び運用方法等を検討する。 →市ホームページ上で「小学生のためのスポーツ団体一覧」を公開し、県「スポーツ指導者情報」を紹介。		目標達成状況	実施回数は目標の半数であり、達成できていない。
	イ 予定より遅れている	個別事情 社会状況の変化、考慮すべき事情 計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）	相談業務は、知識や経験が必要なもののなので、段階的に増やしていく必要がある。	事業費 (実績額) 円
個別事情を考慮した総合評価	(b) 個別事情を踏まえれば概ね順調であるとみなせる。		健康相談の実施回数は月1回であったが、8月～3月まで継続し行ったことで、相談対応に必要な知識と経験を蓄積することができた。	
評価を踏まえての取組み(見直し)	状況を見ながら、実施回数を増やしていく。		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	
審議会・懇話会等の意見	・目標設定を実施回数とするのは機械的で適当ではない。 ・気軽に質問できる健康相談の他に、年に数回の（体力測定などの）医療系の行為を含めた健康相談もあった方がよい。 ・相談の機会は多い方がよい。浅く広く受け付ける窓口が大切だ。			

【総合計画の体系】 2-3	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 3 スポーツを楽しむまち
計画における位置付け	（4）【基盤づくり】スポーツを通じて活力に満ちたまちづくりを推進します

事業名	池子の森自然公園の運動施設利用推進事業	○リーディング事業 ◎基幹計画事業	課コード 所管名	0403 文化スポーツ課
事業概要	目的：池子の森自然公園の共同使用に伴い、運動施設の利用によって、より多くの市民がスポーツに親しむことのできる機会を創る。 対象：市民 手段：池子の森自然公園の運動施設整備			
2018(平成30)年度 目標	池子の森自然公園内運動施設のアーチェリー場を整備する。	現状値 (25年度末)	整備していない	
2015(平成27)主な事業内容	○池子の森自然公園の既存運動施設の改修及び維持管理を実施する。 ○池子の森自然公園のアーチェリー場の設計及び整備を行う。		事業費 (予算額)	351,503千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	○池子の森自然公園の既存運動施設の改修及び維持管理を実施する。 →野球場（大・小）防球ネット設置工事設計業務委託及び野球場（大・小）防球ネット設置工事、照明設備補修工事を実施。 ○池子の森自然公園のアーチェリー場の設計及び整備を行う。→計画の見直しに伴い実施せず。			目標達成 状 況	計画の見直し（池子の森自然公園）により達成していない。
				事業費 (実績額)	77,320,440円
進捗状況 の評価	ア 予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情	希少動物が確認され、当初の整備予定地を保全することになったため、池子の森自然公園基本計画の見直しをしたことで、アーチェリー場の配置調整を行った。	
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）		
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。		アーチェリー場以外の改修及び維持管理は実施した。		
評価を踏まえての取組み(見直し)	引き続き改修及び維持管理を行う。		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など		
審議会・懇話会等の意見	・進捗状況の評価に、昨年度まであった「予定通り進捗」（「事業完了」の記述がないもの）はないのか。				

逗子市学校教育総合プラン

◇理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

総括	評価	審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)
「学校教育の充実したまち」という目標に対して、各学校が、この逗子市学校教育総合プランをもとにそれぞれの実情に合わせて『自ら考え、心豊かに、たくましく生きる逗子の子ども』の育成に取り組んできている。 今後も学校を取り巻く社会状況の変化に応じて、具体的な取り組みを更に進めていく。	A	・評価の尺度が適切か、見直しも必要である。また、数値だけでなく、質も見えていただきたい。 ・様々な取り組みについて、一定の評価はしているが、取組が外部に見えにくい実態がある。発信の工夫が必要ではないか。 ・学校での取り組みが次から次と求められる中、教職員の負担が多くなっている。バランスを考えながら、取り組み方の工夫も必要である。

◇施策体系別の評価

施策体系	評価	コメント	総合評価の状況			審議会・懇話会等の意見
			(a)	(b)	(c)	
1 教員の指導力向上	a	教員の授業力向上のために、少人数指導教員・教育指導教員の派遣、全小・中学校への授業研究委託などを行った。また、学力・学習状況調査を全小・中学校で実施し、結果を学習に生かすようにしている。経験年数に応じて悉皆の研修を企画、開催した。	2			ただ取組を行うのではなく、中身が伴うよう、評価も数値だけではなく、質を見ていく必要がある。
2 課題に対応する学校づくり	b	各種担当者会の開催、支援教育推進巡回指導員の計画的な派遣、各種研修の開催などを行った。支援シートの活用は、少しずつ進めているが、今後工夫しながら対象を広げていく必要がある。	2			・巡回指導員の効果的な派遣を継続してもらいたい。 ・支援シートの活用が広がらないことの原因を分析する必要がある。
3 子どもたちの学力向上	a	児童・生徒理解の充実を図り、職員で個々の子どもたちの特性を知り、授業づくりを工夫することで、子どもたちの学力向上を図った。全小・中学校への授業研究委託、各種夏季研修の開催、臨任・非常勤職員対象の授業づくり指導、初任者研修、授業チェックリスト等の授業評価への活用の推進などを行った。	1			取組が外部に見えにくい現状がある。発信に工夫が必要である。
4						

◇審議会・懇話会等の意見

＜各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見＞

- ・各学校の自己評価、学校評価の流れは、適切だと思われる。
- ・数値評価だけではなく、質の評価も大切であり、内容をよく見ながら評価を適切に行いたい。

＜計画を越えた連携についての意見＞

特になし

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

＜事業の推進・改善に向けて意見・提案＞（今年度、来年度に向けた意見）

- ・数値だけではなく、取組内容が見える化してもらいたい。
- ・取組の情報発信の工夫をお願いしたい。
- ・先生方の負担方にならないような工夫が必要である。

＜個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞（次期計画に向けた意見）

- ・時代の流れに応じて加除修正が必要

【総合計画の体系】 2-4	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 4 学校教育の充実したまち
計画における位置付け	1 教員の指導力向上

事業名	教員の授業力・学級経営力・児童生徒指導力向上重点事業	● リーディング事業 ○ 基幹計画事業	課コード 所管名	1002 学校教育課
事業概要	目的：各市立学校において、「わかりやすい授業づくり」や「お互いを認め合う学級づくり」などに関する教員の指導力向上を図り、予防的な指導・成長を促す指導・課題解決的な指導を推進することによって、児童生徒の健全育成をより一層図る。 対象：各市立小・中学校の教員・児童生徒 手段：授業と学級経営についての自己チェックリスト等の活用、学校のICT環境の整備と活用、保護者向け啓発リーフレットの配布や教員向け研修の充実などを行う。			
2018(平成30)年度 目標	①「お互いを認め合える学級づくり」が、50%以上の学級で行われている。 ②50%以上の教員が「自己チェックリスト」を活用して授業や学級経営についての振り返りを行っている。 ③情報機器を活用した授業づくりのモデル校を設定し、実践モデルが示されている。		現状値 (25年度末)	①小学校の一部の学級でモデル的に実施されている②2013（平成25）年度に自己チェックリストを作成した。③小学校中心とした教員の一部で進められている。
2015(平成27)主な事業内容	○「わかりやすい授業づくり」「お互いを認め合える学級づくり」を推進するための自己チェックリストを活用する ○個別支援を必要とする児童生徒に対する支援シートを作成・活用する。 ○ICT環境の整備と活用に向けた取り組みを実施する。 ○児童生徒理解に向けた取り組みを実施する。		事業費 (予算額)	4,499,000千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容の実施結果	○「わかりやすい授業づくり」「お互いを認め合える学級づくり」を推進するための自己チェックリストを活用した ○個別支援を必要とする児童生徒に対する支援シートを作成・活用した ○ICT環境の整備と活用に向けた取り組みを実施した ○児童生徒理解に向けた取り組みを実施した		目標達成状況	予定通り実施した
			事業費 (実績額)	4,115,637円
進捗状況の評価	ア 予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情 計画や施策、組織を横断する視点での取組状況（相乗効果の有無）	
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。			
評価を踏まえての取組み（見直し）	今後も計画的に事業を進めていく		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	
審議会・懇話会等の意見	・評価の尺度は適切かを見極める必要がある。 ・ただ取組を行えばいいのではないはず。質を見る評価が大切である。			

【総合計画の体系】 2-4	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 4 学校教育の充実したまち
計画における位置付け	1 教員の指導力向上

事業名	少人数指導員・教育指導教員派遣事業、教育相談事業	○リーディング事業 ◎基幹計画事業	課コード 所管名	1002 学校教育課
事業概要	目的：教員の指導力向上を目指して、教育指導教員による具体的な指導とともに、研修の充実を図る。 対象：公立学校教員 手段：・教育指導教員が、臨時任用教員や経験の浅い教員を対象に授業を観察し、授業力向上を目指して日常的な指導・助言を行う。 ・経験年数に応じた研修体制の構築と授業のユニバーサルデザイン化など、児童生徒指導力・授業力・学級経営力向上に関わる研修内容の充実を図る。			
2018(平成30)年度 目標	教員のライフステージに応じた研修体制を構築するとともに、校内研修の充実を図り、授業力向上に向けた環境を整備する。	現状値 (25年度末)	希望研修にとどまっている	
2015(平成27)主な事業内容	・経験年数に応じた支援教育研修体制を構築し、研修の積み上げによる指導力向上を図る。 ・臨時任用教員の授業力を向上するため、教育指導教員等による日常の授業観察をとおして指導・助言を行う。 ・市委託研究などの機会を活用して、授業改善の視点で校内研修を検証する。			事業費 (予算額) 29,137,000千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	・経験年数に応じた支援教育研修体制を構築した ・臨時任用教員の授業力を向上するため、教育指導教員等による日常の授業観察をとおして指導・助言を行った ・市委託研究発表会を開催し、授業改善の視点で校内研修を検証した。			目標達成 状 況	予定通り実施した
				事業費 (実績額)	25,380,631 円
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個 別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情		
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）		
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。				
評価を踏ま えての取組 み(見直し)	今後も計画的に事業を進めていく			検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	
審議会・ 懇話会等の 意見	・研修体制の構築が進んだことは評価できる。この体制のもと、教員がしっかりと研修を積み重ねることが大切である。 ・教育指導教員の活用を引き続きお願いする。				

【総合計画の体系】 2-4	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 4 学校教育の充実したまち
計画における位置付け	2 課題に対応する学校づくり

事業名	学校支援地域本部事業、教育相談事業	☐ リーディング事業 ☒ 基幹計画事業	課コード 所管名	1002 学校教育課
事業概要	目的：市民や地域の子ども教育関係機関との連携を強め、地域の教育力を活用した学校づくりを進める 対象：学校支援地域本部、ふれあいスクール・放課後児童クラブ等地域教育機関、地域人材など教育資源 手段： ・防災訓練や授業の講師など地域人材の活用や連携を深め、学校と地域が一体となって児童生徒の育成を図る ・ふれあいスクールや放課後児童クラブ指導員との情報共有を進めるとともに研修体制を構築していく			
2018(平成30)年度 目標	地域教育関係者と教育研究所との連携を強化するとともに、様々な機会を活用して学校と地域の人的な交流を促進する	現状値 (25年度末)	ふれあいスクール・放課後児童クラブと教育研究所の情報共有が進んでいる	
2015(平成27)主な事業内容	・ふれあいスクールや放課後児童クラブと教育研究所の情報共有を促進し、研修体制の仕組みを作る ・学校の防災訓練を地域と連携して実施する仕組みを作る ・小・中学校での授業改善の一環として、地域人材の活用を進める。			事業費 (予算額) 1,568,000千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	・ ふれあいスクールや放課後児童クラブと教育研究所の情報共有を促進し、研修体制の仕組みを作った。 ・ 小・中学校での授業改善の一環として、地域人材の活用を進めた。			目標達成 状 況	やや遅れ気味ではあるが、予定通り進行している
				事業費 (実績額)	1,559,200円
進捗状況 の評価	イ 予定より 遅れている	個別 事情	社会状況の変化、 考慮すべき事情		
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）		
個別事情を 考慮した総合評価	(b) 個別事情を踏まえれば概ね順調であるとみなせる。				
評価を踏まえての取組み(見直し)	地域と連携した防災訓練を計画的に進める		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など		
審議会・懇話会等の意見	・ 地域人材の活用は、子どもたちの学力向上にも効果があると思う。充実させてほしい。 ・ 防災教育は必須である。時間的制約はあると思うが、様々な想定での訓練をお願いしたい。				

【総合計画の体系】 2-4	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 4 学校教育の充実したまち
計画における位置付け	2 課題に対応する学校づくり

事業名	就学事務事業、教育相談事業	☐ リーディング事業 ☒ 基幹計画事業	課コード 所管名	1002 学校教育課
事業概要	目的：幼稚園・保育園・小学校・中学校間で子供に関する情報共有を促進し、スムーズな接続と引き継ぎをするための体制を構築する 対象：保育士、幼稚園・小学校・中学校教諭、療育相談室・教育研究所職員 手段：・個別支援計画の接続と引き継ぎを図るための教職員同士の交流を進め、情報共有を図る。 ・適切な就学や進学を実現するため、保護者も含めた情報共有と個別支援計画についての協議を促進する。			
2018(平成30)年度 目標	市内共通の支援シートを作成し、個別支援が必要な子どもについて個別指導計画を共有化する。	現状値 (25年度末)	共通の支援シートが無い	
2015(平成27)主な事業内容	・個別指導の必要な子どもに関する観察などを目的とした支援教育推進巡回指導員による巡回を幼稚園・保育園・中学校まで拡充する ・幼稚園・保育園・小・中学校で共通した支援シートを活用し、情報共有と個別指導計画の作成を図る			事業費 (予算額) 1,663,000千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	・ 個別指導の必要な子どもに関する観察などを目的とした支援教育推進巡回指導員による巡回を幼稚園・保育園・中学校まで拡充した ・ 幼稚園・保育園・小・中学校で共通した支援シートを活用し、情報共有と個別指導計画の作成を行った。			目標達成 状 況	やや遅れ気味であるが、計画に沿って進んでいる
				事業費 (実績額)	1,585,632円
進捗状況 の評価	イ 予定より 遅れている	個別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情		
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）		
個別事情を 考慮した総合評価	(b) 個別事情を踏まえれば概ね順調であるとみなせる。				
評価を踏まえての取組み(見直し)	個別シートの活用について周知徹底を図る		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など		
審議会・懇話会等の意見	・ 巡回指導員の巡回は好評である。継続し、さらに充実させてほしい。 ・ 個別支援の必要な子どもたちへの支援シートが思ったほど活用されないのは何故か分析をし、改善のために工夫をしていただきたい。				

【総合計画の体系】 2-4	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 4 学校教育の充実したまち
計画における位置付け	3 子どもたちの学力向上

事業名	特別支援教育充実事業、教育相談事業	☐ リーディング事業 ☒ 基幹計画事業	課コード 所管名	1002 学校教育課
事業概要	目的：校内支援委員会の機能的な運営の充実を図り、スクールカウンセラー・支援教育巡回指導員・学習支援員・心の教室相談員とともにチーム支援体制を構築する 対象：教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、学習支援員、心の教室相談員 手段：スクールカウンセラー・支援教育巡回指導員・学習支援員・心の教室相談員と教育相談コーディネーター間で情報共有と支援計画の共有化を図る			
2018(平成30)年度 目標	特別支援教育に関する研修会を充実させることにより情報共有と児童生徒理解を深め、学年体制で援助方針を検討する仕組みを作る	現状値 (25年度末)	特別支援教育に関する研修会が定着し、小学校で学年による情報共有が少しずつ始まっている	
2015(平成27)主な事業内容	・学習支援員・心の教室相談員・教育相談コーディネーターそれぞれの研修会を充実させ、お互いに情報共有を図り、児童生徒理解を深める ・支援教育巡回指導員による助言を受けて、学年体制で見立てと支援方策を協議する仕組みを各学校で整備する		事業費 (予算額)	48,340,000千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	・学習支援員・心の教室相談員・教育相談コーディネーターそれぞれの研修会を充実させ、お互いに情報共有を図り、児童生徒理解を深めた ・支援教育巡回指導員による助言を受けて、学年体制で見立てと支援方策を協議する仕組みを各学校で整備している			目標達成 状　　況	予定通り進めている
				事業費 (実績額)	45,284,200円
進捗状況 の評価	ア　予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情		
			計画や施策、組織を横断する視点での取り組み状況（相乗効果の有無）		
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。				
評価を踏まえての取り組み（見直し）	継続して取り組んでいく			検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	
審議会・懇話会等の意見	・校内での取組が外部に見えにくい現状がある。数値だけではなく、内容を発信していくことも必要ではないか。				

逗子市社会教育推進プラン

◇理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

総括	評価	審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)
事業はおおむね予定通り実施できた。 市民団体、他部署などと協力し、企画立案に知恵を出し合うことで、内容が充実してきたように感じる。今後も、さらに協働を進めていきたい。 また、よりプランの実現につながるよう、テーマの設定についてより工夫していきたい。	A	知識の習得にとどまらず、次の行動にむすびついている講座が多くあることが、社会教育として評価できる。 関連する課との情報交換を密にし、連携して事業を進めてほしい。

◇施策体系別の評価

施策体系	評価	コメント	総合評価の状況			審議会・懇話会等の意見
			(a)	(b)	(c)	
1 現代的課題に関する学習機会の提供	a	市長部局(生活安全課)、近隣自治体(葉山町)、市民団体と連携して事業を行うことにより、独自の予算で行うよりも内容を充実させることができ、広い範囲からの参加者があったので、今後も連携を強めていきたい。 文化財保存活用については、活用の部分の検討をしていきたい。	2			・バランスのよい企画だったと思う。 ・デリケートな課題については、参加者の多寡ではなく講座を続けていくことに意義がある。 ・文化財保存活用については、市民への周知がさらに必要である。
2 地域で取り組む課題に関する学習機会の提供	a	人材育成につなげる講座を、市民団体と協働して実施した。また図書館の協力を得ることができた。 参加者同士の交流で、新たなアイデアが生まれ、企画に参加するメンバーも出てきた。次年度の講座をさらに充実させたい。	1			・ワークショップを取り入れたことで、参加者が交流でき、充実した内容になったと思う。 ・修了生の活動の場に向けて、次年度以降のステップを明確にできるとよい。
3 地域で子どもを育てる環境づくりに向けた学習機会の提供	a	市民団体、教育研究所、市長部局(生活安全課)と連携して事業を行うことにより、独自の予算で行うよりも内容を充実させることができた。 事業が子育てに関わる団体や人を結び、次のステップにつながるよう努めていきたい。	1			・ワークショップを取り入れたことで、参加者が交流でき、充実した内容になったと思う。 ・参加者同士でサークルを立ち上げたことは、大きな成果だと思う。
4						

◇審議会・懇話会等の意見

＜各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見＞

特になし

＜計画を越えた連携についての意見＞

・文化財保存活用事業については、文化スポーツ課が所管する逗子市文化振興基本計画、経済観光課が所管する逗子市自然の回廊プロジェクトと関連しているので、所管の情報交換を密にしてほしい。

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

＜事業の推進・改善に向けて意見・提案＞（今年度、来年度に向けた意見）

- ・人権教育等事業については、しつけと児童虐待についても検討してほしい。
- ・文化財保存事業のまんだら堂の公開については、公開日を増やしてほしい。

＜個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞（次期計画に向けた意見）

・各種講座事業(地域課題)のサードエイジ連続講座と、家庭教育事業のずし親子アフタースクールは、逗子のまちを基本においている点で視点が共通している。世代間交流が図れる事業に展開できるとよい。

【総合計画の体系】 2-5	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 5 子どもも大人も共につながり成長していくまち
計画における位置付け	①現代的課題に関する学習機会の提供

事業名	人権教育等事業	☐ リーディング事業 ☒ 基幹計画事業	課コード 所管名	1011 社会教育課
事業概要	目的：人権問題について正しい理解を深める。 対象：市民 手段：人権啓発事業を実施する。			
2018(平成30)年度 目標	人権啓発事業を実施する	現状値 (25年度末)	人権啓発事業を実施している。	
2015(平成27)主な事業内容	☐ 講座等の開催 ☐ 人権啓発パンフレットの作成 「子どもの権利条約ガイドブック」		事業費 (予算額)	479千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	・講座等3回開催、参加延べ人数164名 「フェアトレードな暮らしとまちづくり」11月7日37名 「チョコレートドーナツ」で家族愛と人権について考える 12月9日117名 「多様性を認め合おう性的マイノリティ(LGBT)と人権」2月20日10名 ・人権啓発パンフレットを1,000部作成し、中学1年生、小中学校教職員に配付、各施設に配架			目標達成 状 況	予定通り実施。
				事業費 (実績額)	385,672円
進捗状況 の評価	ア 予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情 計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）	・NPO法人逗子まちなかアカデミー、逗子フェアトレードタウンの会主催の連続講座の1回を共催 ・葉山町、逗子市人権擁護委員会、生活安全課と共催	
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。			予定通りに実施できたので。	
評価を踏まえての取組み(見直し)	今後も継続して事業を実施する。			検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	
審議会・懇話会等の意見	・バランスのよい企画だったと思う。 ・何らかのアクションにつなげたいという感想が多かったことは、大きな成果だと思う。 ・デリケートな課題については、参加者の多寡ではなく講座を続けていくことに意義がある。事前申込だけでなく、当日の参加も可にすると、参加しやすい。 ・映画は、上映後参加者によるディスカッションを行うと、理解が深まると思う。また、昼夜2回上映すると、参加者の層が広がる。				

【総合計画の体系】 2-5	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 5 子どもも大人も共につながり成長していくまち
計画における位置付け	①現代的課題に関する学習機会の提供

事業名	文化財保存活用事業	☐ リーディング事業 ☒ 基幹計画事業	課コード 所管名	1011 社会教育課
事業概要	目的：国指定史跡名越切通、長柄桜山古墳群をはじめとした文化財を適切に保存管理、公開活用する。 対象：指定文化財所有・管理者、市民、市外からの来訪者 手段：所有・管理者が行う指定文化財の維持管理、保存修理等を支援する。 指定文化財等説明板を設置する。老朽化した文化財収蔵庫を改修する。 整備計画、実施計画等に基づいて名越切通、長柄桜山古墳群を整備する。			
2018(平成30)年度 目標	・保存修理等補助金、管理奨励交付金を交付する。 ・名越切通まんだら堂やぐら群(A・B群)の保存工事を行う。 ・長柄桜山古墳群第1号墳保存工事を実施する。	現状値 (25年度末)	管理奨励交付金の交付 名越切通・長柄桜山古墳群の 保存整備工事の実施	
2015(平成27)主な事業内容	・管理奨励交付金を交付する。 ・文化財収蔵庫の補強工事を行う。 ・名越切通まんだら堂やぐら群No.23やぐらの保存工事を行う。 ・長柄桜山古墳群第1号墳保存工事（第2期）を行う。		事業費 (予算額)	56,941千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	・管理奨励交付金を交付した。（対象人数11人、対象物件13件） ・持田文化財収蔵庫の補強工事を行った。 ・名越切通まんだら堂やぐら群No.23やぐらの保存工事を行った。 ・まんだら堂限定公開を行った。（60日、9281人来場） ・長柄桜山古墳群第1号墳保存工事（第2期）を行った。			目標達成 状 況	文化財の保存環境を改善した ほか、年次計画に則り料史跡 の保存整備工事を実施し、活 用に向けて事業が進捗した。
				事業費 (実績額)	47,749,639円
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	財政事情等により、指定文化財説明板設置工事費は予算化できなかった。	
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）	老朽化した説明板を更新する必要があるため、引き続き予算化を図っ ていく。	
個別事情を 考慮した総 合評価	(b) 個別事情を踏まえれば概 ね順調であるとみなせる。				
評価を踏ま えての取組 み(見直し)	今後も継続して事業を実施する。			検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	
審議会・ 懇話会等 の意見	・まんだら堂の公開日を増やしてほしい。 ・まんだら堂の公開日を知らない人が多いので、タウンニュースなど、広報に力をいれてもよいの ではないか。 ・逗子市自然の回廊プロジェクトとの連携が見えにくい。				

【総合計画の体系】 2-5	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 5 子どもも大人も共につながり成長していくまち
計画における位置付け	②地域で取り組む課題に関する学習機会の提供

事業名	各種講座事業(地域課題)	◎ リーディング事業 ○ 基幹計画事業	課コード 所管名	1011 社会教育課
事業概要	目的：市民の高度な学習要求にこたえるため、逗子の歴史や文化財、現代的課題、地域課題等の学習機会を提供し、市民の学習活動やまちづくり、ひとづくりの講座を開催することで、地域活動等へのデビューのきっかけづくりを行い、地域の課題を地域で解決できる人材育成をめざす。 対象：市民 手段：逗子の歴史や文化財、現代的課題の講座、地域の課題を地域で解決するための人材を育成する講座等を開催する。			
2018(平成30)年度 目標	・人材育成のための講座を開催する。 ・2年間の連続講座の実施。 ・人材育成講座修了生の活動の場の検討・推進		現状値 (25年度末)	未着手
2015(平成27)主な事業内容	人材育成のための講座の開催			
	事業費 (予算額)		100千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容の実施結果	・1講座（4回シリーズ）開催、参加延べ人数96名 「サードエイジ連続講座」 第1回 27年11月15日 26名 第2回 27年11月29日 26名 第3回 27年12月13日 26名 第4回 28年1月17日 18名		目標達成 状況 事業費 (実績額)	人材育成のための講座をスタートすることができた。 100,000円
進捗状況の評価	ア 予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情 社会状況の変化、考慮すべき事情 計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）	NPO法人逗子まちなかアカデミーに委託	
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。		予定通りに実施できたので。	
評価を踏まえての取組み(見直し)	今後も継続して事業を実施する。		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	
審議会・懇話会等の意見	・ワークショップを取り入れたことで、参加者が交流でき、充実した内容になった。 ・チラシからは講座の趣旨がわかりにくかった。逗子を知ってほしいということを前面に出してもよかった。 ・平成30年度目標の修了生の活動の場に向けて、ステップを明確にできるとよい。 ・サードエイジだけでなく、若い人も引き込める要素があってもよい。			

【総合計画の体系】 2-5	第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち 5 子どもも大人も共につながり成長していくまち
計画における位置付け	③地域で子どもを育てる環境づくりに向けた学習機会の提供

事業名	家庭教育講座事業	○リーディング事業 ◎基幹計画事業	課コード	1011
			所管名	社会教育課
事業概要	目的：家庭の教育力向上を図る			
	対象：子育てに関心のある市民及び子育て中の保護者 手段：家庭教育の向上を図り、地域全体で家庭教育を支えるため、子育て中の保護者及び子育てに関する地域活動に関わる人たちへの支援を行う講座を企画し開催する。			
2018(平成30)年度目標	家庭教育講座等、家庭の教育力の強化のための講座を実施する。	現状値 (25年度末)	家庭教育講座を実施している。	
2015(平成27)主な事業内容	家庭教育講座の開催			
	事業費 (予算額)	154千円		

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	・4講座（4回シリーズ1と2回シリーズⅠを含む）開催、参加延べ人数200名 「ずし親子アフタースクール」第1回5月23日35名、第2回6月27日31名、第3回7月26日13名、第4回9月27日34名 「育休ライフ応援講座①産後の体のお話とベビーヨガ、赤ちゃんと一緒にママヨガ」10月15、22日13名 「育休ライフ応援講座②整理収納レッスン」10月29日21名 「特別支援教育は人間理解の教育」9月6日40名			目標達成 状況	予定通り実施。
				事業費 (実績額)	147,032円
進捗状況 の評価	ア 予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情 社会状況の変化、考慮すべき事情 計画や施策、組織を横断する視点での取組状況（相乗効果の有無）	2講座は生活安全課と共催、1講座は教育研究所と共催		
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。		予定通りに実施できたので。		
評価を踏まえての取組み（見直し）	今後も関係課と協力して、さらに充実した内容になるよう取り組む。		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など		
審議会・懇話会等の意見	・ずし親子アフタースクールについては、ワークショップを取り入れることで参加者の交流が深まり充実した内容になった。 ・参加者が話し合う場があるのはとても大切。情報交換の場になる。 ・世代間の交流ができるとよい。 ・参加者同士でサークルを立ち上げたことは、大きな成果だと思う。				